



発行所 国鉄労働組合 盛岡地方本部  
発行 佐々木 力  
編集 及川 孝  
TEL 019-622-5021  
メールアドレス numori@poem.ocn.ne.jp

2014.5.10  
第1469号

拡大キャッチコピー

「新しい仲間づくりを 皆の力で」  
「一緒に解消しませんか、 あなたの疑問。 加入ってます」

### 北上地区で青年 2名が国労に加入

5月1日付けで北上地区において39歳・25歳の青年2名が東労組から国労に加入してくれました。4月の八戸地区のGS社員に続く平成採用者の加入となっています。仲間をさらに増やす取り組みを進めていこう。

<激励先> 国労北上地区協  
TEL・FAX 0197-63-4174

#### 当面の主な日程

- ▽5月13日(東京) 本社経営協議会
- ▽5月15・16日(東京) 第14回国労東日本本部軟式野球大会
- ▽5月19日(盛岡) 第8回地方本部執行委員会
- ▽5月31日(盛岡) 地方本部組織・教官部長合同会議
- ▽6月5日(安比) 第19回地方本部ゴルフ大会
- ▽6月14日(東京) 東日本本部組織部長会議

### 盛岡支部組織対策会議

## 分会活動を活性化させ組織の拡大を

### 当たり前の「組合・分会」活動が大切

盛岡支部は4月26日(土)に盛岡国労会館で21人の参加者の中で「組織対策会議」を開催しました。会議は佐々木委員長が座長を務め、佐藤書記長が拡大行動の具体的な目標・行動について提起し、現在盛岡支部内のある分会活動の取り組みを紹介し、協議・意見交換が行われた。参加した分会代表者7人から組織拡大の取り組み、新規採用者の加入に向けた取り組みなどの問題、職場状況が報告されました。最後に「組織拡大にむけ分会活動を活性化させ、目標を設定して取り組み」ことを確認し終了しました。

### 7人の代表者が取り組みを報告

会議は、中堤副委員長の開会あいさつ後、佐々木委員長が「分会活動の活性化は、結果が出なくても繋がりを持つことが大事、できる職場、できない職場なりにやる事があるはず、討論しあ



「取り組みを報告する佐々木睦美北上工務分会分会長」

「盛岡支部で3月、主務職の方为国労に加入した。4月には上野支部で父親を国労役員に持つ28歳の社会人採用が加入した、父親の姿を見て国労加入したに違いない。国労加入の点が出てくる現在、その点を面に変える必要がある。取り組みを強化しよう」とあいさつを受けました。

続いて、佐藤書記長より「新たな組合員を受け入れるためにも、分会体制の整備と見える組合運動の展開が必要」との問題提起により協議と意見交換に入りました。各分会代表者からは「職場で新社員の情報を掴み、共通の話題を流す中から交流していきたい」「若手社員に仕事を教えて教える事が大事、コミュニケーションが何より大事」「会社側とそれぞれの労



組織内候補の阿部一男氏(67)が立候補を予定する花巻市議会議員選挙

## 阿部一男氏(組織内)立候補を支援を

### 花巻市議会議員選挙◇7月20日告示・27日投開票

組織内候補の阿部一男氏(67)が立候補を予定する花巻市議会議員選挙(定数26)が7月20日告示、27日投開票で施行される。阿部氏は社民党公認で最初の補欠選挙での当選から連続9度当選。10度目の議席確保を目指している。選挙は現行定数の34から8減となり、厳しい選挙戦が予想されている。

地方本部も4月21日推薦を決定。今後は北上地区協、花巻市在住の組合員の取り組みが中心となるが、「安心して子育てができ、高齢者も安心の医療と介護」の実現や平和な社会を引き継ぐことなどを掲げ選挙戦を進めている阿部氏の当選にむけ、友人知人の紹介な

【後援会事務所TEL】  
0198-24-0138

青森地区協事務局長 工藤 忠久  
※同集会には、平和環境岩手県センターもバス台で代表団25人が参加。国労からも3人が参加した。

働組合との関係の変化も感じられる。「仕事帰りに若手社員を飲み誘って話を聞いてみる」と取り組みが進んでいる。報告と、一方で「組織拡大は厳しい」「職場に新入社員が何人配属されたか分からない」「他労組に新入社員への組合説明会をしようと提案したが断られた」「飲み会に誘う事が出来たが世間話で終わってしまった」という報告もありました。

最後に佐藤書記長が「組織拡大が出来る事を確認し合った会議だったと思う。平成採用者との垣根を作らない事が大事、引き続き、繋がりを持つこと。これからは拡大後の組織的な活動が求められる。各自分会に持ち帰り目標設定してほしい。支部は分会執行委員会に参加していく」とまとめ、各分会で「今取り組んでいる組織拡大行動について、具体的な目標を設定し活動の点検を総括し、次の行動の対策と目標設定と連続した取り組みを展開すること」などを確認して会議を終了しました。



「毛行進も行い県民に訴えた

4月5日青森市の青い森公園で「4.9反核燃の日全国集会」が開催されました。当日は雪と強い風が吹いていましたが、全国から1200人主催者発表、国労青森支部からも青森地区協を中心に52人の仲間が結集しました。

集会を主催者団体、藤本泰成全国実行委員会事務局局長、三上武志青森県反核実行委員会委員長、あいつで始まり、基調報告のあと全国から4人の報告あり、福島平和フォーラム副代表の半澤周二氏からは「福島原発事故から3年たった今でも故郷を追われ自宅に帰ることもできない多くの地域住民がいる。安倍政権や東京電力のあたかも終息に向かっているかのような発言とは裏腹に事を積極的に取り組んでいこう。

故復旧のため立たず汚染水が漏れる事故が相次いでいる。今こそ県民国民で原発・核燃を廃止するため全国の仲間と共に闘おう」と報告がありました。その後、集会アピールを採択し原発と核燃施設のない社会の現実に向け闘いを強化していくことを確認、団結ガバローを三唱し成功裡に終わりました。

集会を終わって悪天候の中、青い森公園から新町へ毛行進をし、青森県民声高らかに反原発脱原発として青森県を核のゴミ捨て場にしてはいけないことを訴えました。

青森県は、六ヶ所再処理工場も中間貯蔵施設東通原発大間原発とまさに行き場のない核放射能のゴミ捨て場にされます。これまで青森県は核燃料などを配分してもらっただけのその場のしのぎの県政で、いざ事故が発生した場合、地域住民は大変な窮地に追い込まれ生命すら脅かされることは明白です。これは原発を押し進められている全国の地域も同じです。

集会に参加し、私たち国労は組織拡大の闘いを進めながら命と財産を守る闘いをさらに強化し全国の仲間と連帯し反核反原発・平和を守る闘いを進めていかなければと強く思いました。

◇ 集会に参加し、私たち国労は上下各4本のダイヤで路線バスが運行している。今後も利用者の声を聞き、ダイヤや運行本数についての検討も必要だ。先日、三陸鉄道が全線で開通した。復興のシンボルとして「SL銀河」の運行も否定はしないが、被災沿線住民の求めているのは、山田線宮古―釜石間の鉄路による早期復旧だ。被災地の鉄路をどうやって守っていくか。今後も「地域と共に生きる」運動を続けたい。(孝)

## 1200人の結集で 反核燃・脱原発訴える

### 「4.9反核燃の日全国集会」(青森)

雪と強い風が吹いていましたが、全国から1200人主催者発表、国労青森支部からも青森地区協を中心に52人の仲間が結集しました。

年度末は、消費税が目前に迫り消費者の駆け込み購入でスーパーやホームセンターは賑わいを見せた。大型スーパーでは「まとめ買いセール」などの値引きも活発。トイレットペーパーや洗剤などの日用品、ペットボトル飲料やビールを大量に載せたショッピングカートが行き交い、レジは長蛇の列となった。そして4月1日、平成26年度は消費税増税を伴ってスタートした。その後のスーパーは、混雑がウソのように静けさを取り戻し、落ち着いて買い物ができる環境に戻ってきた。

### ていこう

「まとめ買いセール」などの値引きも活発。トイレットペーパーや洗剤などの日用品、ペットボトル飲料やビールを大量に載せたショッピングカートが行き交い、レジは長蛇の列となった。そして4月1日、平成26年度は消費税増税を伴ってスタートした。その後のスーパーは、混雑がウソのように静けさを取り戻し、落ち着いて買い物ができる環境に戻ってきた。

### 第14回盛岡地方 電気協議会定期委員会

## 事故対策や組織拡大などで議論

### 議長に浮中氏(盛岡電気分会)を再任

第14回盛岡電気協議会定期委員会が4月5日、盛岡国労会館4階会議室において役員・委員約30人が参加して開

催されました。委員会は、佐藤祐司副議長が開会あいさつを行い、委員長に佐藤徳彦委員(盛岡電力メセ)



＝協議会を代表しあいさつする浮中議長＝

を進められ、協議会を代表して浮中議長が、①昨年盛岡で開催された東日本本部交流会の取組みへの御礼と今年秋の秋開催交流会への協力要請②昨年からの多発している

列車脱線・墜落・線閉鎖り・感電等の重大事故について③事故が発生する都度対策がとられ、どれだけの対策かわからなくなっている現状④電協の運動から組織拡大を勝ち取るため、職場実態の報告をお願いします。

次に地方本部及川執行委員から①春闘の経過②組織拡大の現在報告と今後の一歩進んだ取り組み③地方選挙の勝利に向けた協力要請などのあいさつを受けました。続いて、高橋東日本電気協議会議長から「メンテナンス体制を検証する中で、内容を知らない社員が半数以上となる。若手教育(技術力維持向上)の問題と実態を確認しなければならぬ。川崎駅構内脱線事故で

は、工事局の発注工事で安全対策が十分に徹底されていないのではないか。また、企業体の集まりで列車に対する知識が足りなく、事故につながるため実態を突き合わせて安全施工に申し送り要求をつくりたい。電協の組織拡大は昨年秋田から勝ち取り勢いをつけようとしたが、なかなか難しい状況も報告されている。今後も継続した取り組みをお願いし拡大を勝ち取りたい」と報告を受けました。

その後経過報告、活動方針の提案を受け討論に入り、8人の委員から職場実態報告と組織拡大や若手社員との交流について発言がありました。主な報告として、「各職場の若手社員は、超勤も多く忙しそうに見える状況。ある職場の若手上司は、作業間合いを最大限使い追加作業をさせ、作業に余裕のない予定を組んでいる。本来の検査に集中できないし、この先安全に作業が出来るか不安である。今はベテラン社員が仕事をこなすが、数年後は障害対応に不安である」等、将来を見越した若手社員の技術力の無さを心配する声がありました。また、組織拡大では、「若手と話す機会はあるが、その場で終わってしまい、継続的に話す機会が取れない。以前より飲み会を開催する機会が増えた。国労加入を直接伝えたい」等の取り組みが報告されました。

委員会議長の進行で多くの発言を引き出し、職場実態を共有する点で大変充実した委員会となりました。役員は浮中議長をはじめ全員が再任されました。委員会は、遠堀副議長から職場の問題点の検証

と今後の方針を確認して閉会のあいさつを行い、最後に浮中議長の団結ガンバローで閉会しました。

◆(新三役役員体制) 議長 浮中 明 (盛岡電気分会) 副議長 遠堀 勝義 (八戸工務分会) 佐藤 祐司 (盛岡電気分会) 事務局長 美濃山 司 (盛岡電気分会) ※報告 事務局長 美濃山 司



### 北村進氏2度目の議席確保

#### 宮古市議選・無投票で当選確定

宮古市議会議員選挙(定数28)は、4月13日に告示され定数と同じ28人が立候補し、無投票での当選が確定した。

同選挙には、岩手県教職員組合出身の北村進氏(54)が社民党公認で立候補しており2度目の議席を確保した。北村氏からは、国労の推薦取り組みにしてお礼の電話が地方本部に入っている。

なお、同選挙区には社民党公認で自治労出身の竹花邦彦氏も立候補当選。今後、被災地の早期復興、JR山田線の早期復旧に取り組んでいくこととしている。

## 組合員・家族26人が参加し交流

### ＝北上地区協ボウリング大会＝



「優勝と飛び賞を手喜びする石川さん親子」

秋のレクリエーションをグラウンドゴルフに譲って初の春開催となったレク、北上地区協ボウリング大会が、4月12日、工務、駅連の分会から組合員、家族26人が参加しにぎやかに北上ヤングボウルで開催され

ました。秋のレクリエーションをグラウンドゴルフに譲って初の春開催となったレク、北上地区協ボウリング大会が、4月12日、工務、駅連の分会から組合員、家族26人が参加しにぎやかに北上ヤングボウルで開催され

ました。秋のレクリエーションをグラウンドゴルフに譲って初の春開催となったレク、北上地区協ボウリング大会が、4月12日、工務、駅連の分会から組合員、家族26人が参加しにぎやかに北上ヤングボウルで開催され

ました。秋のレクリエーションをグラウンドゴルフに譲って初の春開催となったレク、北上地区協ボウリング大会が、4月12日、工務、駅連の分会から組合員、家族26人が参加しにぎやかに北上ヤングボウルで開催され

ました。秋のレクリエーションをグラウンドゴルフに譲って初の春開催となったレク、北上地区協ボウリング大会が、4月12日、工務、駅連の分会から組合員、家族26人が参加しにぎやかに北上ヤングボウルで開催され

ました。秋のレクリエーションをグラウンドゴルフに譲って初の春開催となったレク、北上地区協ボウリング大会が、4月12日、工務、駅連の分会から組合員、家族26人が参加しにぎやかに北上ヤングボウルで開催され

北上地区協 工藤慎一



<6分会から35人が参加した>

冒頭、岩沢栄常任委員長から大量退職時代に入り国労運動の維持・存続が急務であること。佐々木研司支部委員の報告などを受けた。討論では、新規採用者への教育や指導の係わり方、自由に話ができる環境にあるのか、会社や他労組の動向・組織拡大の障害など具体的な活発な発言が相次いだ。

貨物分会からは、15年連続ベアゼロ57歳からの賃金3割カット、構造的矛盾が旅客会社との賃金・労働環境格差がますます拡大されている実態の報告。組織拡大分会からは、加入した仲間と今後どう運動をともに進めていくかと同時に社会人・プロフェッショナル新規採用者に国労グッズを渡しながら加入に向けての対話運動の強化などや「新人社員は組合というより自分の将来設計を見定め業務にあたる。我々が社員としてこないとおもう」「コンプライアンスの問題もあり、新規採用者の配置人数データ等が漏れないはずが、他労組はある程度知ってた様子がある」「若手社員とは同テーブルで働き指導もするので飲み会に快く参加しオン・オフを通じ何でも話せる職場になった」「業務体制見直しでJR本体に残った人が11人、出向組が30人と職場が別々になり全体の繋がりが持たないのが難しくなった」など、参加者35人中20人からの発言があり2時間の意見交流はあっという間に過ぎ、各職場の生の実態を再認識させられた。引き続きの第2部懇親会ではさらに突っ込んだ話がされた。

今交流会で、「仕事を通じ若手社員は先輩を見ている。差別がなくなったとしても見えざる壁があるのは現実だが、決して臆することなく自信と責任を持って職場で奮闘しよう」と確認し終わった。

◆ 盛岡地区協 伊藤 淳

## 見直し要求まとめ職場改善に取り組み

### ＝地方運輸協議会職場交流会＝

4月20日、地方運輸協議会主催の第3回職場交流会が盛岡国労会館で10人が参加し開催されました。昨年10月から実施された「グループ会社と一体となった業務体制のさらなる推進」により、さまざまな外注化による問題点が提起されており、昨年も2回の職場交流会を開催し東北

ブロック会議へ提起しながら東日本本部による申し入れの糧としました。

開会は、佐藤副議長の見直し交渉のさらなる肉付けをしていただきたいとのあいさつに始まり、高橋議長を座長に選出し、今日までの経過を報告したうえで、「新しい問題点も出てきており整理しながら

ら、上部機関の交渉経緯も踏まえながら問題解決をしていきたい」とのあいさつを受けました。続いて沢田地方本部書記長から、組織拡大の報告などを受け職場の意見交流に入りました。

各職場からは、「交番検査について、重量物の作業において、突発的な発生もあるの

で普段必要な要員が確保されていない。直管対応にしてほしい」「一閃」「作業責任者が検修業務の中心がわかないまま構内計画を立てている。作業ダイヤがない状態で作業をしている」「(盛岡)や安全衛生委員会の中身、ノロウイルス対策などが見えない状況についても報告を受けました。賃金面についても、同じ仕事をしながら格差が大きい、正社員登用の合格率が低いなど、MRSの実態を踏まえながらの報告がありました。

また、教育面についても十分な教育がされていない。資材関係についても軸替作業など大きな作業時の部品の提出方がなくなり、残業での対応もあるなど多岐にわたる問題点が出されました。

これを受け座長の高橋議長が、「多くの問題点が噴出している外注化施策であるが、早急に見直し要求としてまとめ、交渉して問題の解決を図りたい」とまとめ、交流会を閉会しました。

◆ ※報告 事務局長 川原 昭

## 各職場の実態を20人が発言

### 組織拡大の取り組みも確認

### 盛岡地区協6分会交流

盛岡地区協議会は、4月12日(土)盛岡国労会館会議室において、2011年3月の東日本大震災以降途絶えていた6分会交流会(約35人参加)を開催した。

長からは、3月18日に盛岡支部内で国労加入してくれた主務職の仲間と実現に際した取り組み、4月4日の青森支部のGS社員国労加入の報告などを受けた。

討論では、新規採用者への教育や指導の係わり方、自由に話ができる環境にあるのか、会社や他労組の動向・組織拡大の障害など具体的な活発な発言が相次いだ。

貨物分会からは、15年連続ベアゼロ57歳からの賃金3割カット、構造的矛盾が旅客会社との賃金・労働環境格差がますます拡大されている実態の報告。組織拡大分会からは、加入した仲間と今後どう運動をともに進めていくかと同時に社会人・プロフェッショナル新規採用者に国労グッズを渡しながら加入に向けての対話運動の強化などや「新人社員は組合というより自分の将来設計を見定め業務にあたる。我々が社員としてこないとおもう」「コンプライアンスの問題もあり、新規採用者の配置人数データ等が漏れないはずが、他労組はある程度知ってた様子がある」「若手社員とは同テーブルで働き指導もするので飲み会に快く参加しオン・オフを通じ何でも話せる職場になった」「業務体制見直しでJR本体に残った人が11人、出向組が30人と職場が別々になり全体の繋がりが持たないのが難しくなった」など、参加者35人中20人からの発言があり2時間の意見交流はあっという間に過ぎ、各職場の生の実態を再認識させられた。引き続きの第2部懇親会ではさらに突っ込んだ話がされた。

今交流会で、「仕事を通じ若手社員は先輩を見ている。差別がなくなったとしても見えざる壁があるのは現実だが、決して臆することなく自信と責任を持って職場で奮闘しよう」と確認し終わった。

◆ 盛岡地区協 伊藤 淳